

伊勢参宮街道：01 日永追分—高岡—神戸

日永の追分

東海道から伊勢に向かうにはここ日永の追分から伊勢参宮街道と関宿追分からの伊勢別街道がある。

この追分周辺には茶屋や旅籠が並び賑わったという。

鳥居は安永3年江戸に店を持つ久居の渡辺六兵衛氏が日永に鳥居がないのを遺憾に思い伊勢出身の江戸の同士を募り建てたという。

鳥居は元、街道の上に建てられていた。道標、嘉永2年(1849)が残る「左 いせ参宮道」「京大阪道」「すぐ江戸」



神戸城址

南北朝時代亀山城主関盛政の長男盛澄が西条町南に沢城を築き、神戸姓に改めた。4代具盛のとき現在地に移った。(天文年間1532-55)

7代友盛の時、永禄10年(1567)と翌年、支城の高岡城が信長から攻撃されるが家臣山路弾正が防いだので信長は和睦を働きかけ三男信孝を養子に出した。信孝は楽市、伝馬制を定め城下を繁栄させた。

天正8年(1580)五重の天守を建てる。本能寺変後信孝は岐阜に移る。以後城主しばしば変わる。天守は桑名、櫓は亀山の各城に移される。関ヶ原合戦後は一柳直盛移り35年間支配、一時天領になる。次いで本多忠統が移り、本田氏7代明治の廃藩まで続く現在城址含む一帯は神戸公園、二の丸、三の丸は神戸高校の敷地となっている。

りょうこうじ

龍光寺(臨済宗天沢山)

神戸氏の菩提寺、沢城の2代目実重によって西條、沢山に建てられたが神戸氏の移転に伴って現在地に移る。毎年3月に釈迦の大涅槃図が開帳され賑わうという



[弥次・喜多] 馬に乗ったが馬士が借金取りにばったり、馬が走り出し落馬。

「借錢をおふたる馬にのりあはせ  
ひんすりやどんとおとされにかり」

神戸、観音寺

本多氏の菩提寺、歴代の位牌が残るという。

南北朝時代(1336-92)亀山城主関盛政の長男盛澄が築城神戸姓に改める。

沢城址



[弥次・喜多]  
内部川橋銭、2文づつついて渡る  
「抜けまいりならば ぶさをもうつべ川  
わたしの銭もかりばしにして」



札の辻道標

高さ3m、建立明治。  
桑名郡長島村大字押付境参拾壹町五十間  
白子町へ巷里貳拾貳町四十四間  
日永村へ巷里貳拾貳町六間



地子の常夜灯

この辺り桜茶屋で賑わったという

[弥次・喜多]  
神戸の入口にて宝珠山火除け地蔵あり  
「安穩に火除け地蔵の守るらん  
夏のあつさも冬の神部も」



鎌倉権五郎景政之塚

歌舞伎十八番「暫」の主人公  
景政は16歳で源義家に従い「後三年ノ役」に出陣  
金沢柵で敵の鳥海弥三郎に右目を射られながらも  
敵を倒したという勇者。家臣の三浦為嗣が景政の  
顔を踏んで矢を抜こうとすると膝をつかせて抜か  
せたという。